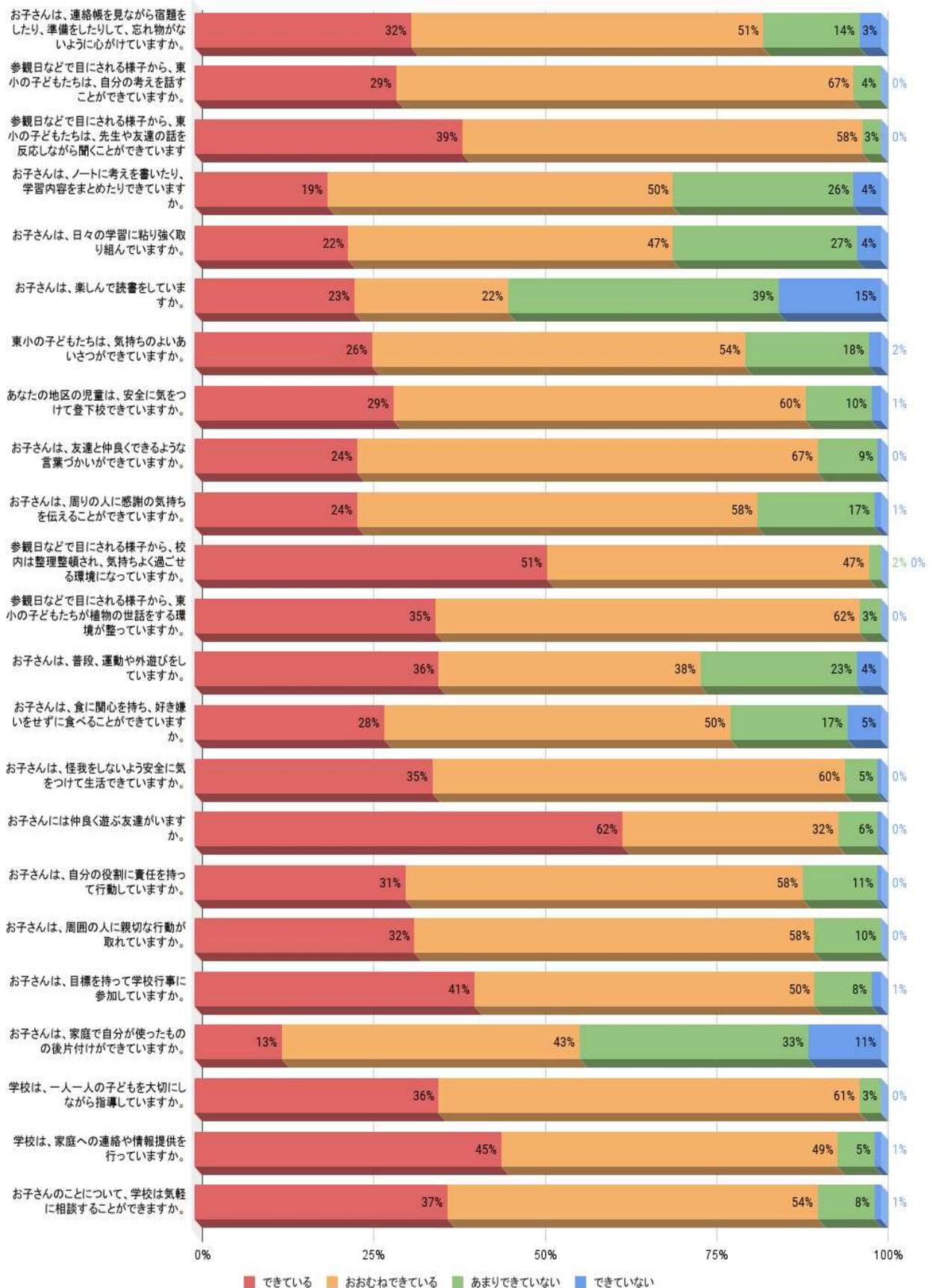


# I 令和6年度 保護者アンケート結果



## 《保護者アンケートの経年変化》

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	昨年度 との比較		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	昨年度 との比較
1 お子さんは、連絡帳を見ながら宿題をしたり、準備をしたりして、忘れ物がないように心がけていますか。	81%	80%	83%	+3ポイント	13 お子さんは、普段、運動や外遊びをしていますか。	67%	67%	74%	+7ポイント
2 参観日などで目にされる様子から、東小の子どもたちは、自分の考えを話すことができますか。	93%	94%	96%	+2ポイント	14 お子さんは、食に関心をもち、好き嫌いをせずに食べることができますか。		72%	78%	+6ポイント
3 参観日などで目にされる様子から、東小の子どもたちは、先生や友達の話に反応しながら聞くことができますか。	96%	93%	97%	+4ポイント	15 お子さんは、怪我をしないよう安全に気をつけて生活できていますか。	94%	93%	95%	+2ポイント
4 お子さんは、ノートに考えを書いたり、学習内容をまとめたりできていますか。	73%	74%	70%	-4ポイント	16 お子さんには仲良く遊ぶ友達がいますか。	91%	88%	94%	+6ポイント
5 お子さんは、日々の学習に粘り強く取り組んでいますか。	72%	71%	69%	-2ポイント	17 お子さんは、自分の役割に責任を持って行動していますか。	85%	84%	88%	+4ポイント
6 お子さんは、楽しんで読書をしていますか。	38%	39%	46%	+7ポイント	18 お子さんは、周囲の人に親切な行動が取れていますか。	90%	92%	91%	-1ポイント
7 東小の子どもたちは、気持ちのよいあいさつができていますか。	82%	80%	80%	±0	19 お子さんは、目標を持って学校行事に参加していますか。	89%	90%	91%	+1ポイント
8 あなたの地区の児童は、安全に気をつけて登下校できていますか。	88%	86%	89%	+3ポイント	20 お子さんは、家庭で自分が使ったものの後片付けができていますか。	48%	51%	56%	+5ポイント
9 お子さんは、友達と仲良くできるような言葉づかいができていますか。	88%	91%	91%	±0	21 学校は、一人一人の子どもを大切にしながら指導していますか。	94%	94%	97%	+3ポイント
10 お子さんは、周りの人に感謝の気持ちを伝えることができますか。	84%	82%	82%	±0	22 学校は、家庭への連絡や情報提供を行っていますか。	94%	92%	94%	+2ポイント
11 参観日などで目にされる様子から、校内は整理整頓され、気持ちよく過ごせる環境になっていますか。	98%	97%	98%	+1ポイント	23 お子さんのことについて、学校は気軽に相談することができますか。	91%	90%	91%	+1ポイント
12 参観日などで目にされる様子から、東小の子どもたちが植物の世話をする環境が整っていますか。	92%	94%	97%	+3ポイント					

※昨年度との比較については、±2ポイント以内は変化なし、それ以上を変化ありとしています。

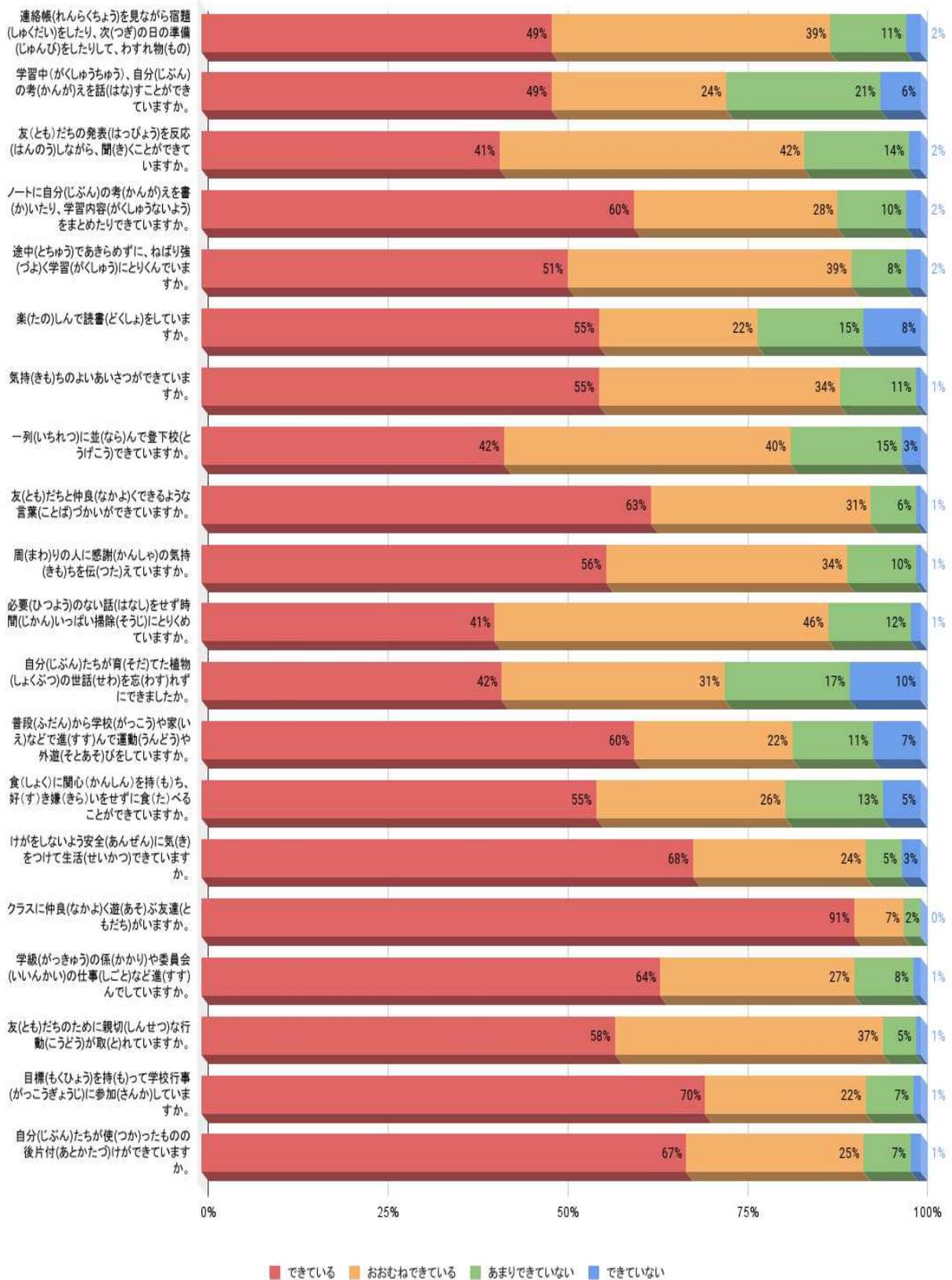
アンケート項目 14 については、昨年度より質問文を変更しているため、一昨年度の評価及び経年変化を出すことはできていない。このアンケート結果から見えてくる児童の姿を、これまでの学校の教育活動の結果と捉え、これを真摯に受け止め、成果と課題を明らかにすることで、これからの教育活動の改善につなげていくことが求められる。

アンケートの 23 項目の内、「できている」「おおむねできている」を合わせた肯定的な評価が 90% を超えたものは 12 項目、80% を超えたものは 5 項目、80% に満たないものが 6 項目となっている。

成果としては、昨年度より数値の伸びが見られた項目が増えたことが大きな成果として挙げられる。具体的には、「3 反応しながら聞くこと」「11 校内環境整備」の 2 項目が挙げられ、95% を超える非常に高い数値となっている。「3 反応しながら聞くこと」については、朝学習での対話や全校放送である東っ子放送に取り組んだり、反応の仕方を教室に掲示したりするなど、継続した指導を行ってきている。そのため、授業参観等で保護者に児童の頑張りを見ていただけていることが成果として表れていると考えられる。「11 校内環境整備」については、昨年度に続き高い数値となっていること、「できている」という積極的な肯定の回答が 50% 以上あることは評価できる点である。また、今年度の結果で数値の上昇が見られた項目は、「16 仲の良い友達」である。昨年度はポイントが低下していたが、今年度は一昨年度よりも数値が高い結果となった。担任だけでなく教職員全体で子どもたちの様子を把握したり情報を共有したりしたことで、子どもたちにとって学校が安心できる場所となった成果であると考えられる。

課題としては、「6 家庭での読書」「20 家庭での後片付け」の 2 項目が挙げられる。「6 家庭での読書」については、昨年度よりはポイントの上昇が見られた。週末読書などの取り組みを通して読書への関心が高まっていることが考えられるため、引き続き学校や家庭での読書時間を確保していく。「20 家庭での後片付け」についても、昨年度より 5 ポイント上昇しているものの保護者の評価が低いのが現状である。学校では声をかけるとできる児童が多いので、片付けができたという経験を学校で重ねていき、家庭での取り組みにつなげていきたい。また、「4 書くこと」については、今年度 4 ポイント低下している。学習用具がノートとクロームブックの併用になり、ノート以外の学習の成果を保護者が知る機会が少ないことが要因の一つとして挙げられる。上手なノートの取り方を児童に周知していくとともに、クロームブックで作成したものを学年通信に掲載するなど、学習活動の情報発信を積極的に行っていきたい。

## II 令和6年度 児童アンケート結果



## 《児童アンケートの経年変化》

	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	昨年度 との比較		令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	昨年度 との比較
1 連絡帳を見ながら宿題をしたり、準備をしたりして、わすれ物がないように気をつけていますか。	85%	89%	88%	-1ポイント	11 必要のない話をせず時間いっぱい掃除にとりくめていますか。	83%	82%	87%	+5ポイント
2 学習中、自分の考えを話すことができますか。	69%	73%	73%	±0	12 自分たちが育てた植物の世話を忘れずにできましたか。	77%	70%	73%	+3ポイント
3 友だちの発表を反応しながら、聞くことができますか。	87%	82%	84%	+2ポイント	13 普段から学校や家などで進んで運動や外遊びをしていますか。	76%	79%	82%	+3ポイント
4 ノートに自分の考えを書いたり、学習内容をまとめたりできていますか。	84%	75%	88%	+13ポイント	14 食に関心を持ち、好き嫌いをせずに食べることができますか。		82%	81%	-1ポイント
5 途中であきらめずに、ねばり強くとりくんでいますか。	84%	85%	90%	+5ポイント	15 けがをしないよう安全に気をつけて生活できていますか。	90%	88%	92%	+3ポイント
6 楽しんで読書をしていますか。	65%	65%	77%	+12ポイント	16 クラスに仲良く遊ぶ友達がいいますか。	95%	97%	98%	+1ポイント
7 気持ちのよいあいさつができますか。	84%	88%	89%	+1ポイント	17 学級の係や委員会の仕事など進んでしていますか。	87%	91%	91%	±0
8 一列に並んで登下校できていますか。	74%	73%	82%	+9ポイント	18 友だちのために親切な行動が取れていますか。	91%	91%	95%	+4ポイント
9 友達と仲良くできるような言葉づかいができますか。	93%	95%	93%	-2ポイント	19 目標を持って学校行事に参加していますか。	91%	90%	92%	+2ポイント
10 周りの人に感謝の気持ちを伝えていますか。	89%	86%	90%	+4ポイント	20 自分たちが使ったものの後片付けができていますか。	91%	91%	92%	+2ポイント

※昨年度との比較については、±2ポイント以内は変化なし、それ以上を変化ありとしています。

アンケートの20項目の内、「できている」「おおむねできている」を合わせた肯定的な評価が90%を超えたものは9項目、80%を超えたものは8項目、80%に満たないものが3項目となっている。

成果としては、昨年度より肯定的な評価が上昇し、かつ90%を超えた「5 粘り強く取り組む」「10 感謝を伝える」「15 安全な生活」「18 親切な行動」の4項目が挙げられる。特に「5 粘り強く取り組む」については、これまで本校で取り組んでいるSTEAM学習での課題解決に向けてアイデアを試行錯誤しながら生み出していくことが、児童の肯定的な評価の要因の一つになっていると考えられる。また「10 感謝を伝える」「18 親切な行動」については、道徳科を中心として学校教育活動の様々な場で感謝や思いやりの気持ちを育てるために指導を行ってきた成果であると言える。自分も相手も大切にできるよう、これからも全教職員で取り組みをさらに充実させていきたい。

しかし、課題として挙げるべき項目もいくつかある。まず、「できている」「おおむねできている」を合わせた肯定的な評価が80%を満たない項目は、「2 自分の考えを話す」「6 楽しんで読書」「12 植物の世話」の3項目である。このうち「6 楽しんで読書」については、昨年度より12ポイント上昇していることから、児童の読書に対する関心は少しずつ高まっていると考えられるため、引き続き楽しんで読書に取り組めるよう手立てを講じていきたい。「12 植物の世話」についても、昨年度よりはポイントの上昇が見られたため、さらに植物を育てる環境を整えていきたい。「2 自分の考えを話す」については、朝学習での「対話」や全校放送の「東っ子放送」「反応名人」などの教室掲示など、話す力を育てるための取り組みを全教職員で行ってきた。これらは学習の基礎基本となる大切な活動であることを教職員で再度確認し、小グループでの話す時間を確保したり身近な話題を「対話」で話したりするなど、児童自らが話したい・伝えたいと思えるような場を提供していきたい。

## 各指導部の分析と今後の改善に向けて

### 〈学習部〉

全校で進めている「対話」や「東っ子放送」「めあて—まとめ—振り返り」「振り返り名人」「反応名人」など、少しずつであるが成果が出てきている。児童の話す・聞く力を育てていくために、今後も取り組みを継続していきたい。また、「けてぶれ通信」や「学年通信」にまとめ方の見本となるノートを掲載することで、まとめ方のポイントを紹介し、児童が参考にできるようにする。さらに、玄関のヘキサゴンボードに、各学年の学びの成果（ワークシートやクロームブックで作成したリーフレット等）を掲示し、学習内容を全校生や保護者に紹介していく。

### 〈生活部〉

挨拶について、お互いが笑顔になれるように、自分から相手に聞こえる声で挨拶をしたり会話をしたりするよう指導していく。具体的には、朝会などで6年生が見本を見せたり、挨拶のことを月目標に入れたりして、児童が意識できるようにしていく。登下校については、安全に登下校できるよう注意点について保護者と教職員の共通理解を図ることが大切になる。そのために、学級懇談会や学校・学年便りで共通理解すべきことを周知していく必要がある。また、一斉下校の際に一週間の振り返りを行い、登校班で課題を共有する取り組みを来年度も続けていきたい。言葉遣いについて、学校では児童が腹を立てたときなどに乱暴な言葉を使っている姿が見られる。そのために、朝会や道徳の授業などで言葉の影響について考えたり、外部に講演を依頼したりして優しい・温かい言葉をたくさん使っていけるように指導していきたい。感謝については、年度初めの学級懇談会で保護者に感謝の気持ちを伝えることの大切さについて話をするようにしたり、感謝の気持ちを表現できる機会を作ったりしていくことが必要であると考え。

### 〈環境部〉

清掃活動については、掃除道具の効果的な使い方を示したり、手順を一緒に確認したりすることで、きれいにしようとする意識をもって清掃を行えるようにしていきたい。また、栽培活動については、栽培活動ができる環境を広げていくなど動植物に触れる機会を増やし、豊かな心を育てていきたい。

### 〈保体部〉

運動については、学校だけでなく家庭でも運動に親しめるよう縄跳びやダンス、柔軟等、室内で取り組める内容を提案し、運動量を確保していきたい。食育については、学校と保護者が同じ思いで指導することができるように、食への関心を高められるように食材の紹介や給食献立のレシピ紹介などをホームページやお便り等で啓発していくことも必要だと考える。また、健康や安全について、けがをしないよう環境を整えるとともに、けがをしないための行動について考える機会を定期的に設けていきたい。

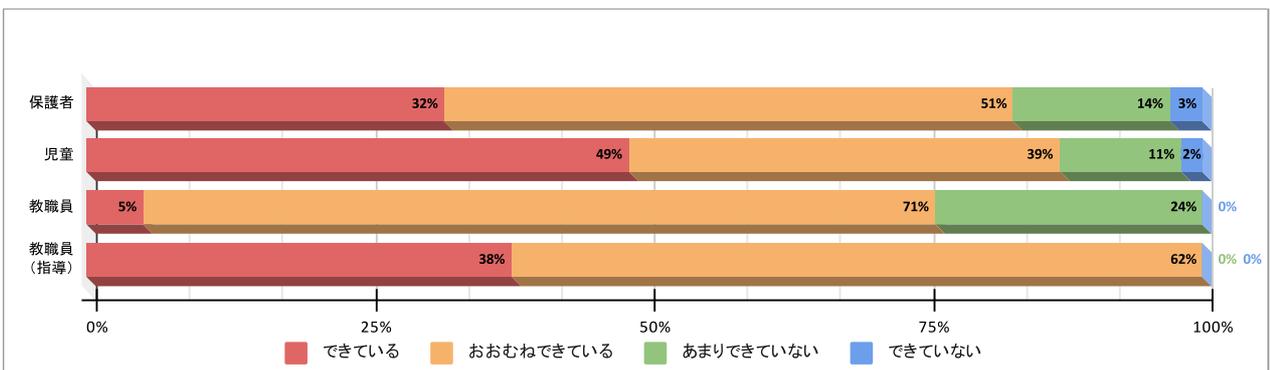
### Ⅲ 令和6年度 比較・分析と考察

保護者・児童・教職員の比較ができるように、三者に対して同様の内容について質問項目を設定している。また、教職員には、それらの項目に対する自身の指導についても回答を求めている。ここでは、三者比較に加え、指導のあり方の4つの視点から比較した結果について分析を行うが、各指導部の重点目標に対応する項目についてはそれぞれの指導部が分析・考察を行っている。それ以外については担当で考察を加えていく。

なお、教職員アンケートの項目のうち、児童の姿に対する質問に関しては自身の担任している学級や、指導している学年の全体について回答するため、少数でも不十分な実態があると「できている」とは答えにくく、「おおむねできている」の回答が多くなっていく。そこで「できている」「おおむねできている」を合わせた肯定的な評価の割合に着目して分析していく。

1

保護者	おさんは、連絡帳を見ながら宿題をしたり、準備をしたりして、忘れ物がないように心がけていますか。
児童	連絡帳を見ながら宿題をしたり、次の日の準備をしたりして、お忘れ物がないように気をつけていますか。
教職員	児童は、忘れ物がなく学習用具の準備ができているか。
教職員（指導）	連絡帳での情報伝達や学習用具点検などを確実に実施し、学習環境を整えるための指導をしている。

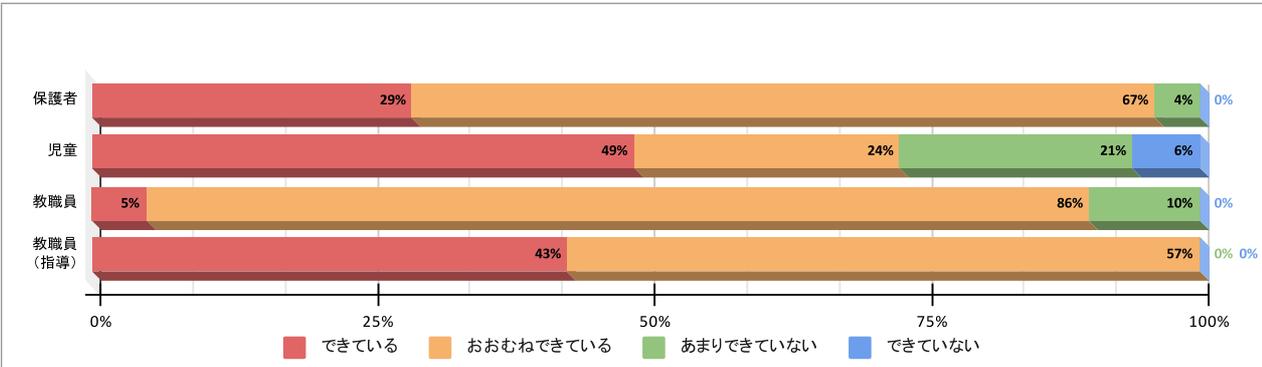


（学習部）

どの教職員も忘れ物をしないように声を掛けたり学習チェックを行ったりしているが、児童の忘れ物がなくなっていない。また、度々忘れ物をしてしまう児童がいるのが現状である。今後も、児童朝会や学級指導等で継続して指導したり、保護者にも家庭で持ち物の確認をしてもらうことを学年だよりや懇談会を通じて伝えたりしていく。また、連絡帳を書く・連絡帳を見て学校の準備をすることを徹底させ意識づけを行っていく。

2

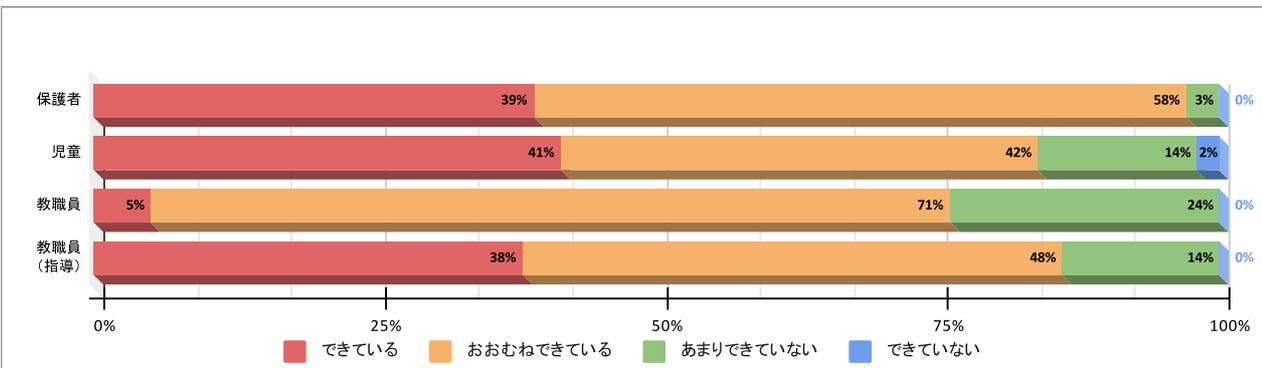
保護者	参観日などで目にされる様子から、東小の子どもたちは、自分の考えを話すことができますか。
児童	学習中、自分の考えを話すことができますか。
教職員	児童は、自分の考えを話すことができるか。
教職員（指導）	児童が自分なりの表現で話すことができるように指導している。



(学習部)  
 話すことに関しては、約3割の児童が話すことが苦手だと感じている。全体の場で話すことを苦手としている児童もいることから、授業では、小グループやペアで話す時間を意図的にとり、自分の考えを発信できる場をつくっていく。また、今年度からの取り組みである朝学の「対話」を通して、身近な話題について話すことで、話すことの楽しさを感じさせたい。

3

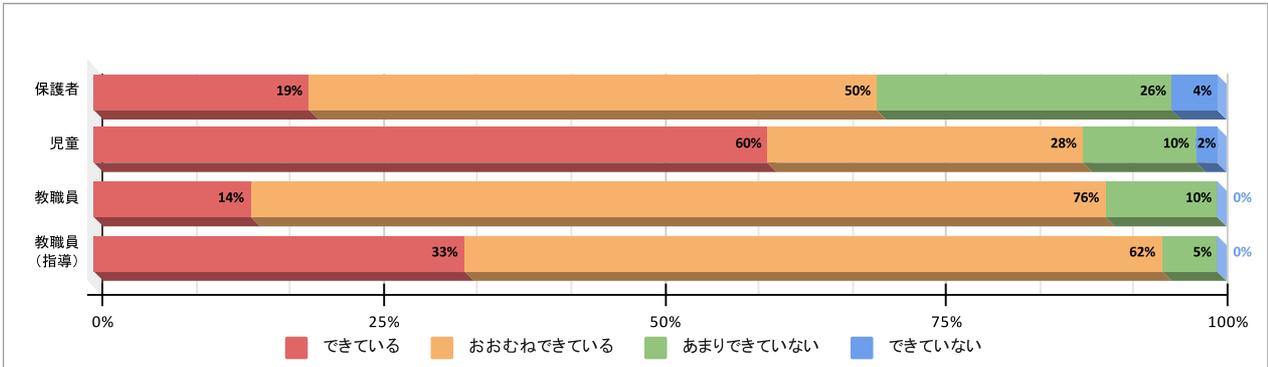
保護者	参観日などで目にされる様子から、東小の子どもたちは、先生や友達の話に反応しながら聞くことができますか。
児童	友だちの発表を反応しながら、聞くことができますか。
教職員	児童は、友だちの発表を反応しながら、聞くことができるか。
教職員（指導）	友だちの発表を反応しながら、聞けるように指導している。



(学習部)  
 聞くことについては、発表や話をしっかり聞くことが「人を大切にすること」にもつながることを意識させ指導を行う。自分の考えと比較したり、反応したりして聞くことができるように指導を継続していく。また、反応しながら聞くことのできる児童を育てていくために、うなずくことや相槌を打つといった技術的な指導も心がけていきたい。

4

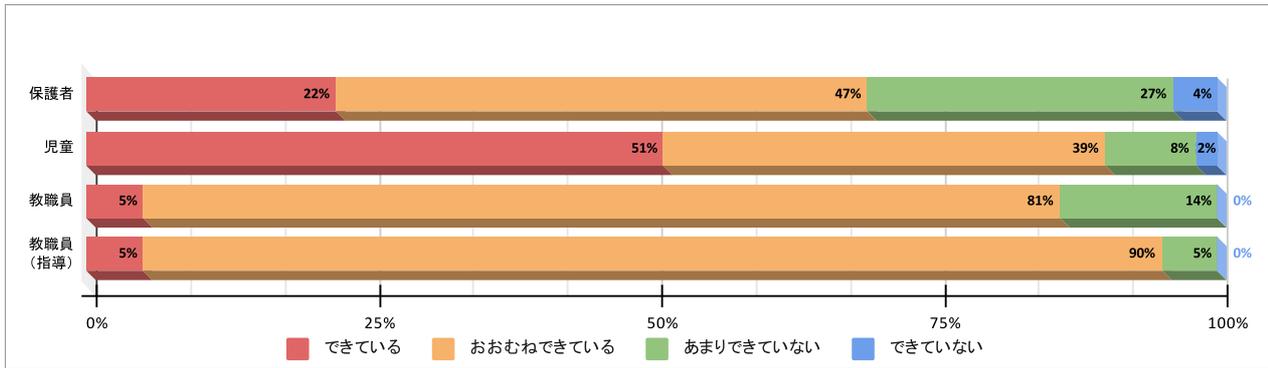
保護者	お子さんは、ノートに考えを書いたり、学習内容をまとめたりできていますか。
児童	ノートに自分の考えを書いたり、学習内容をまとめたりできていますか。
教職員	児童は、ノートに自分の考えを書いたり、学習内容をまとめたりできているか。
教職員（指導）	自分の考えや振り返りを書く場を設定している。



(学習部)  
 保護者と児童の評価の乖離が大きく見られる。学習に使用する用具がノートとクロームブックになっているので、クロームブックをよく利用する単元や学年では、児童のクロームブック（打ち込んだもの）の確認が保護者はできにくい。そのため、肯定的なポイントが下がっているのではと感じる。クロームブックで作成したものを「学年通信」に掲載することで、学習方法が様々に変化していることを伝えていく。また、見本となるノートを掲載するなど、上手なノートの取り方を児童や家庭に広めていく。

5

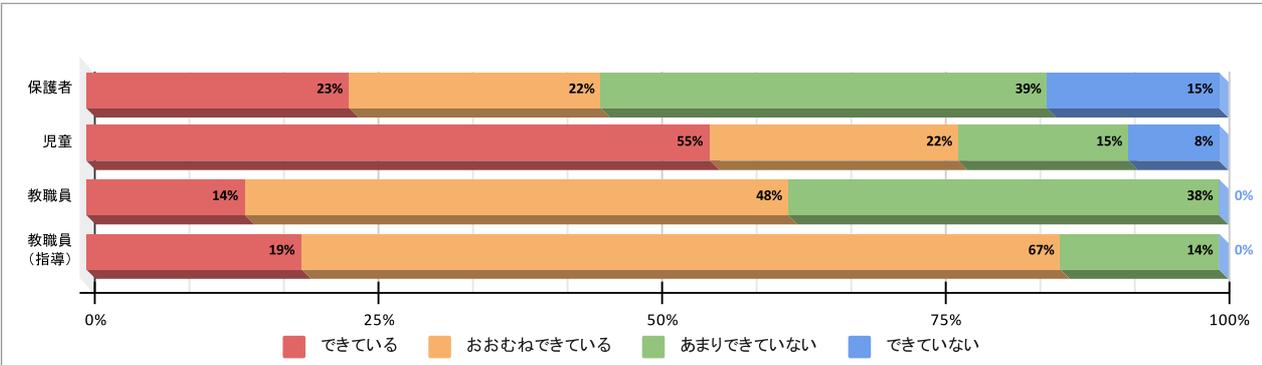
保護者	お子さんは、日々の学習に粘り強く取り組んでいますか。
児童	途中であきらめずに、ねばり強く学習にとりくんでいますか。
教職員	児童は、途中で投げ出したり諦めたりせずに、粘り強く学習に取り組んでいるか。
教職員（指導）	粘り強く学習に取り組めるように意欲を高める授業を工夫している。



(学習部)  
 家庭学習において、粘り強く取り組んでいるという姿が見えにくい。学校では、家庭学習で「けてぶれ（計画→テスト→分析→練習）」を行い、自分で自分の学びを進める力を育ててきた。さらに、夏休みには、長期の学習計画を立て、実践し、計画を改善しながら課題をやり遂げるといふ「自己調整力」を高める手立てを行ってきた。これからも取り組みを進めていき、自ら学んでいく力を身に付けてほしいと考える。

6

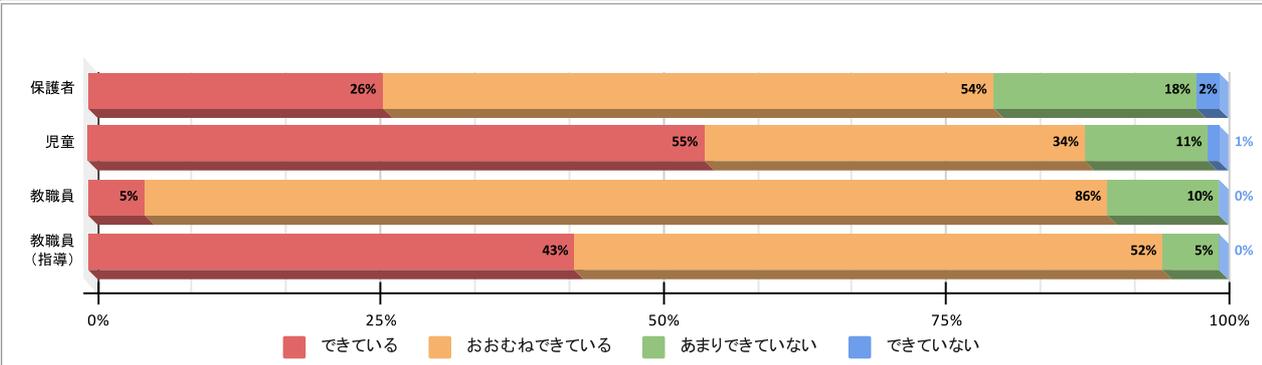
保護者 お子さんは、楽しんで読書をしていますか。  
 児童 楽しんで読書をしていますか。  
 教職員 児童は、楽しんで読書をしているか。  
 教職員（指導） 読書時間の確保や読書環境を整えるなどして、意欲喚起をしている。



（学習部）  
 三者とも肯定的な評価は高くないものの、昨年度と比べ大きく上昇したことから、少しずつだが読書を楽しんでいる児童が増えている。今年度、教職員による児童への読み聞かせを行った。また、読書に魅力を感じてもらうために、図書委員会が読み聞かせや読書ビンゴを実施した。今後も、様々な人からの読み聞かせや読書月間での啓発を行うとともに、学校や家庭で読書をする時間を確保することで、日常的に読書に親しむ児童が増えていくよう取り組みを行っていく。

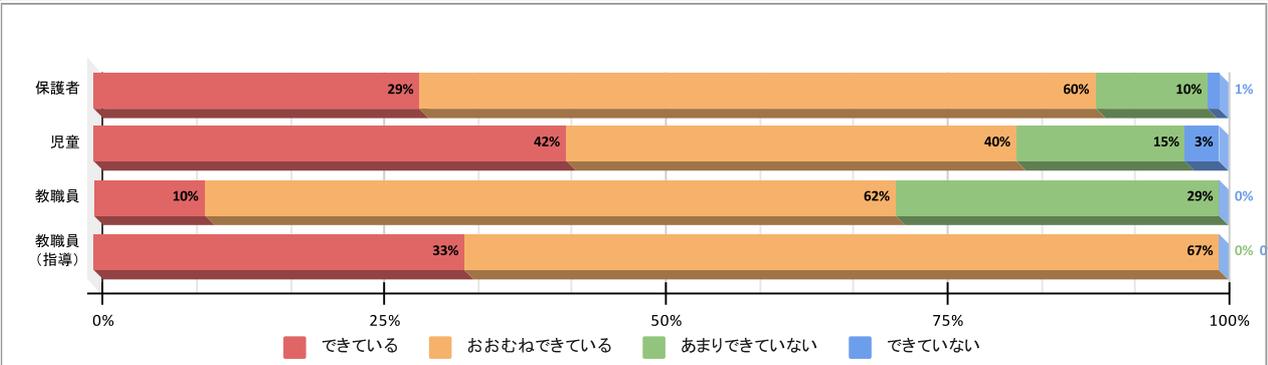
7

保護者 東小の子どもたちは、気持ちのよいあいさつができていますか。  
 児童 気持ちのよいあいさつができていますか。  
 教職員 児童は、気持ちのよいあいさつができていますか。  
 教職員（指導） 児童が相手に聞こえる声であいさつのやりとりができるように指導している。



（生活部）  
 児童会の月目標であいさつをテーマに学校全体で取り組むなど日々のあいさつの呼びかけを行ったことで、気持ちのよいあいさつが少しずつ増えてきている。しかし、あいさつをしているつもりでも元気がなかったり相手からあいさつがないとできなかつたりと、児童の中であいさつの様子に差が出ていると感じる。今後も継続して取り組みを行うとともに、朝会等で児童会があいさつの見本を見せるなど、児童主体であいさつの輪を広げていき「気持ちのよい」あいさつを学校全体で行っていきたい。

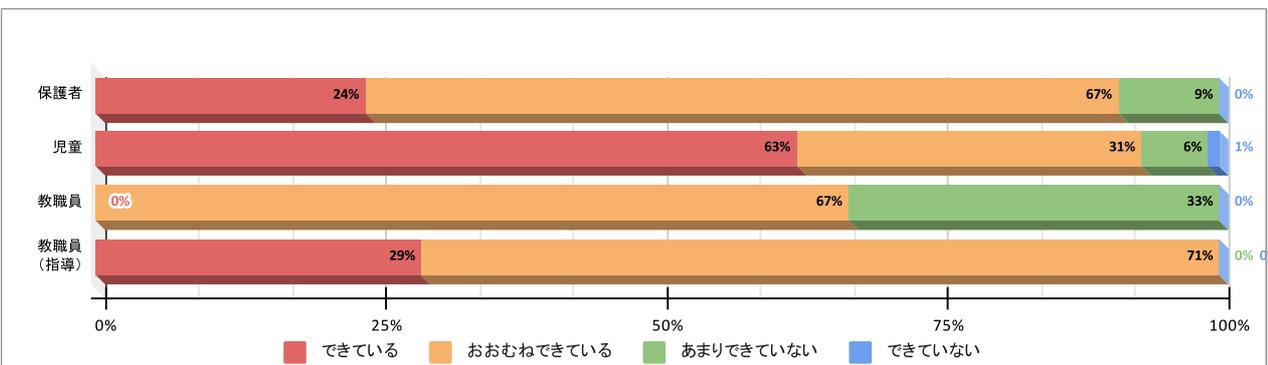
保護者	あなたの地区の児童は、安全に気をつけて登下校できていますか。
児童	一列に並んで登下校できていますか。
教職員	児童は、安全に気をつけて登下校できているか。
教職員（指導）	児童がきまりを守り、安全に気をつけて登下校できるように指導している。



### （生活部）

朝の登校時は見守り隊や地域の方々が児童の様子を見守り指導を行っていただいているが、教職員や地域の目が離れている場所等では登校班の列が乱れたり安全に歩いたりできていないこともある。今後も、見守り隊や地域の方々と登下校の様子について情報交換を行い連携を取っていく。さらに、課題が見つかった時に児童や教職員全体に情報を共有し、安全な登下校についての意思統一を図っていく。児童が主体的に行動できることが理想であるため、朝会で安全な登下校について考えさせたり、一斉下校の時に各班の登下校の様子を振り返らせて望ましい登下校について意見交換をする場を設けたりするなど、自ら考え判断できる児童になるよう指導を心掛けていきたい。

保護者	お子さんは、友達と仲良くできるような言葉づかいができていますか。
児童	友だちと仲良くできるような言葉づかいができていますか。
教職員	児童は、友達と仲良くできるような言葉づかいができていますか。
教職員（指導）	児童が相手の気持ちを考えた適切な言葉づかいができるよう指導している。

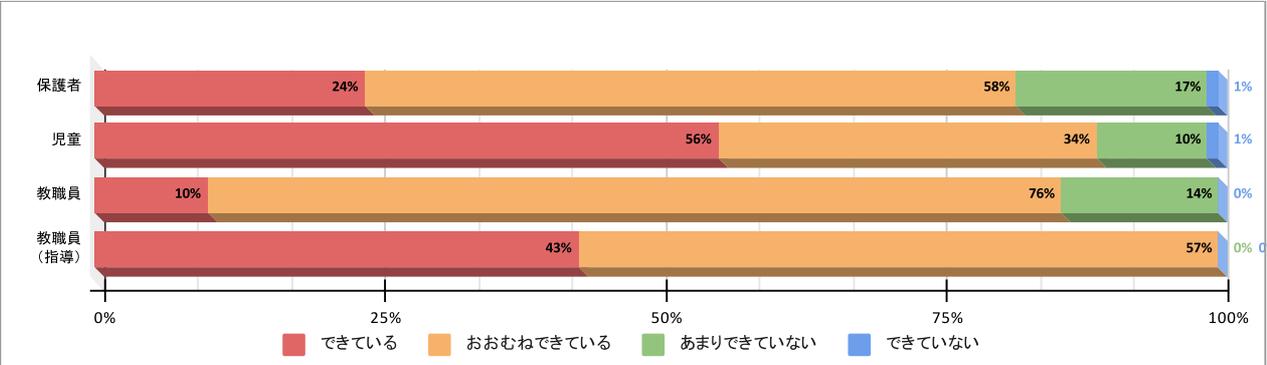


### （生活部）

道徳の時間や学級活動等で仲良くできるような言葉づかいを指導してきた。仲良しの友達には相手を傷つけるような言葉づかいをしていることが少ないが、学級や学年の仲間となると言葉づかいが荒くなっている。教師は日常生活の中で友達同士のトラブルに対処することが多く、相手を傷つける言葉を使っているような場面を目にすることも多い。誰もが記入できる「ふわふわボード」を設置し、朝会やお昼の放送などで嬉しかった言葉や行いを紹介するなど、全ての教育活動の中で自分も相手も大切に教育を充実させていく。

10

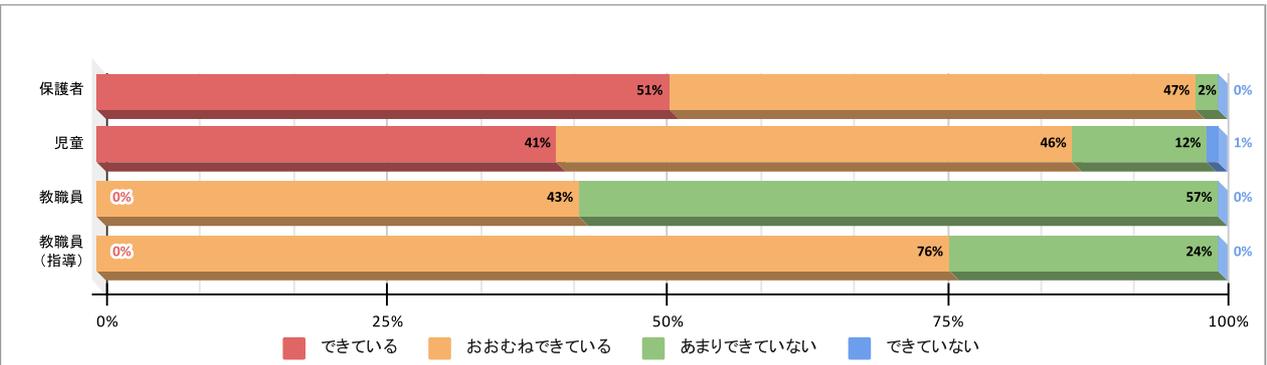
保護者	お子さんは、周りの人に感謝の気持ちを伝えることができますか。
児童	周りの人に感謝の気持ちを伝えていますか。
教職員	児童は、周りの人に感謝の気持ちを伝えているか。
教職員（指導）	児童が感謝の心を持ち、伝え合うことができるように指導している。



(生活部)  
 学年が上がるにつれ「ありがとう」などと改まって感謝を伝えることに抵抗がある児童が多い。手伝いなどの行動で感謝を表していると考えている児童もいるが、相手にはあまり伝わっていないと考えられる。日々の何気ないことにも感謝の気持ちを持ち、言葉でしっかりと伝えていく必要がある。改めて感謝の気持ちを伝える機会を設定したり、学級懇談会等で保護者にも感謝の気持ちを伝えることの大切さを周知したりして、児童が自然に行動に表せるように取り組んでいきたい。

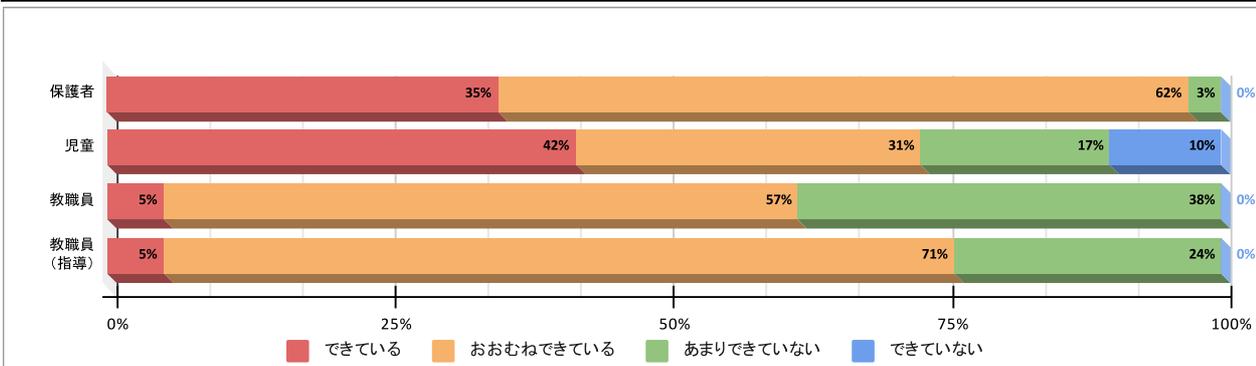
11

保護者	参観日などで目にされる様子から、校内は整理整頓され、気持ちよく過ごせる環境になっていますか。
児童	必要のない話をせず時間いっぱい掃除にとりくめていますか。
教職員	児童は、必要のない話をせず時間いっぱい掃除に取り組んでいるか。
教職員（指導）	自分たちの手で学校を美しくしようとする自主性が育つように指導を工夫している。



(環境部)  
 児童の80%以上が清掃活動に対して肯定的な回答をしたのに対して、教師は40%程度にとどまっている。これは、清掃ができていない感覚のずれが原因だと考える。清掃する場所を2週間以上固定したり、上手にしている児童を全校生に紹介したりすることで、何ができている状態なのか示していく必要がある。また、委員会児童に掃除の手本となる動画を作成させるなども今後検討していきたい。

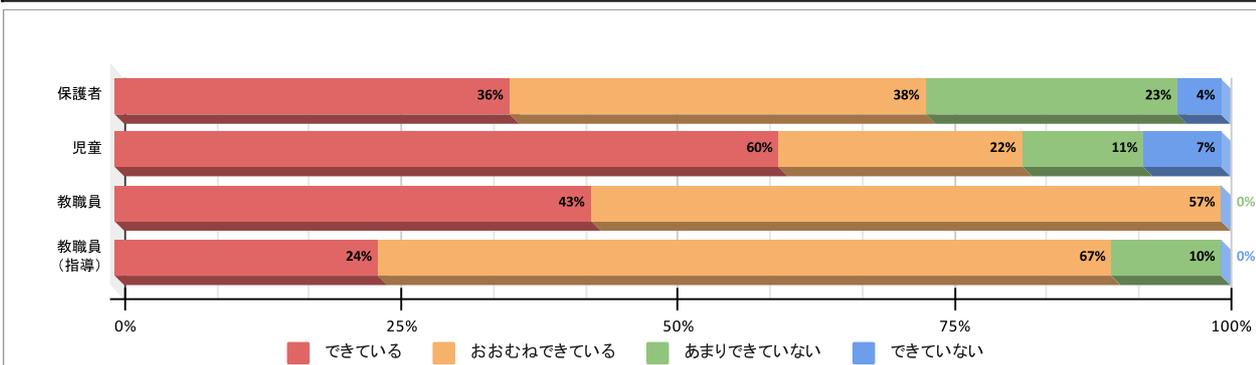
保護者	参観日などで目にされる様子から、東小の子どもたちが植物の世話をしている環境が整っていますか。
児童	自分たちが育てた植物の世話を忘れずにできましたか。
教職員	児童は、自分たちが育てた植物の世話を忘れずにできましたか。
教職員（指導）	責任を持って自分たちが育てる植物の世話ができるよう指導している。



#### （環境部）

学年によって植物を育てる時期が限定されているため、児童や教職員の評価が低くなっていると考えられる。児童が植物の世話を進んでできたという思いをもてるように、教室から距離のある学習園だけでなく、ワークスペースで栽培活動を試みるなどして、全ての児童に植物と関わる機会をもたせたい。

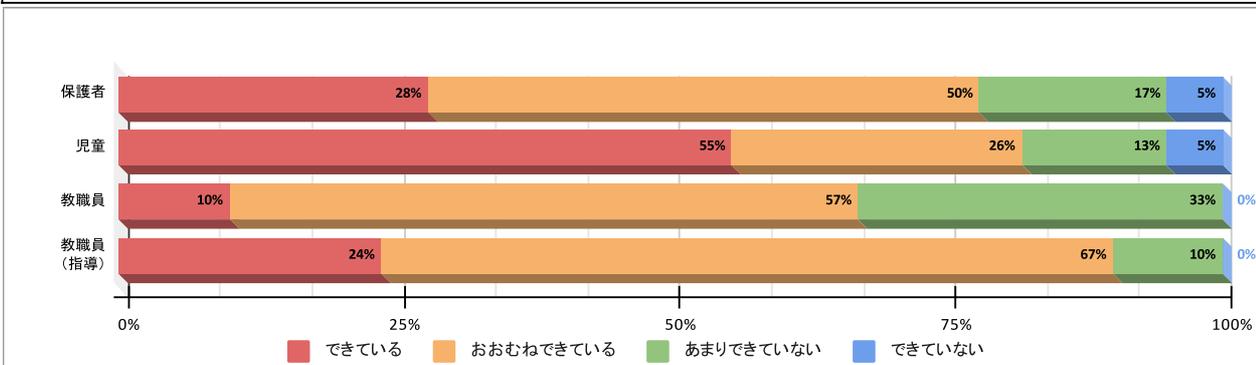
保護者	お子さんは、普段、運動や外遊びをしていますか。
児童	普段から学校や家などで進んで運動や外遊びをしていますか。
教職員	児童は、運動や外遊びを積極的にしているか。
教職員（指導）	児童の体力向上のために、外遊びの奨励や運動の楽しさが味わえるような指導の工夫をしている。



#### （保体部）

教職員と保護者・児童の肯定的な評価の間に乖離が見られた。学校では運動量を確保することはできているが、放課後は時間や場所が限られているため、保護者の肯定的な回答が低くなっていると考えられる。今後の手立てとしては、縄跳び・ダンスや柔軟等室内での体づくり運動を提案し、児童が家庭でも取り組めるようにする。また、長期休業日にはクロームブックを活用して運動の記録をつけていけるようにすることで、継続的に運動や外遊びを行っているようにしていく。

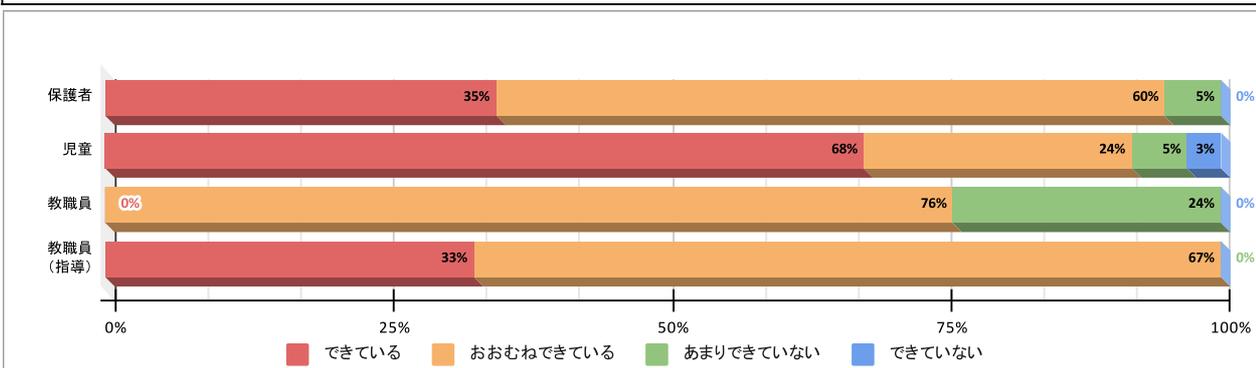
保護者	お子さんは、食に関心を持ち、好き嫌いをせずに食べていますか。
児童	食に関心を持ち、好き嫌いをせずに食べていますか。
教職員	児童は、食に関心を持ち、好き嫌いをせずに食べているか。
教職員（指導）	児童が健康に気をつけた生活を送ることができるように指導している。



（保体部）

給食時間が限られていることで、食べるのに時間がかかってしまう児童は食べることができていないのが現状である。また、学校と家庭の食に関する指導に差があることも要因の一つだと考える。今後の手立てとして、残食や栄養について掲載されているページと献立表を両方掲示することで、「食」への関心を高めていけるようにする。また、ただ食べるだけではなく、作ってくださった方や運んでくださった方など、給食に関わる全ての人への感謝が伝えられるように、一人一人が少しでも多く給食を食べることができるような取り組みを委員会を中心に呼びかけ、望ましい食習慣を身に付けさせていく。

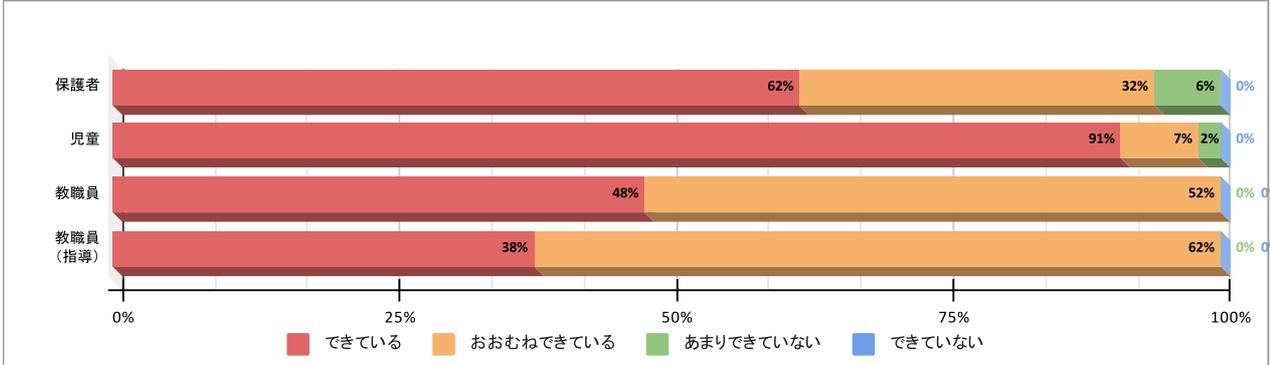
保護者	お子さんは、怪我をしないよう安全に気をつけて生活できていますか。
児童	けがをしないよう安全に気をつけて生活できていますか。
教職員	児童は、怪我をしないよう安全に気をつけて生活しているか。
教職員（指導）	児童が怪我をせず安全な生活ができるように指導している。



（保体部）

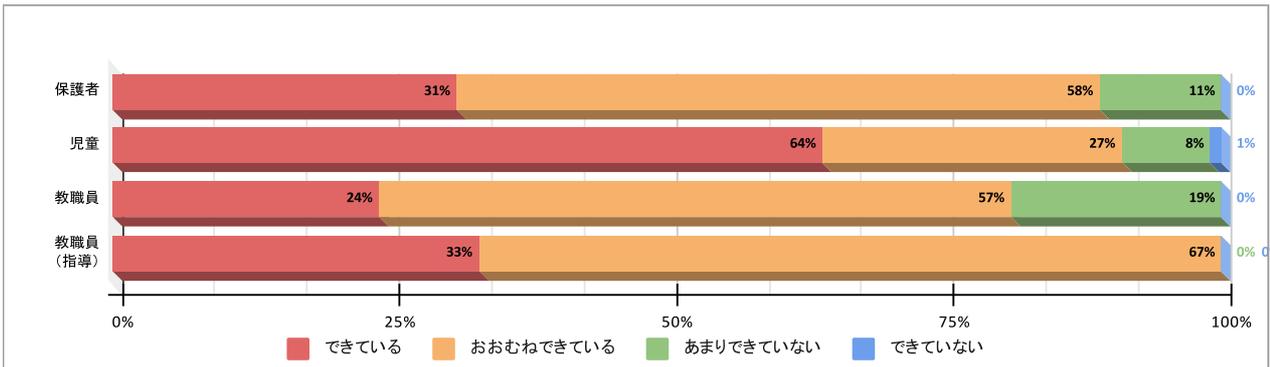
安全な生活について、児童が「けがをして帰ってくるのが少ないこと」が、必ずしも「けがをしないための安全な行動を取っていること」ではないために、保護者と教職員の評価に乖離が見られると考える。大きなけがには結びついていないが、危険予知能力が低いためにヒヤリハットの事案が多いのが現状である。今後も、教職員による呼びかけを継続していくとともに、ワークスペースの環境整備を行うなど、保護者・教職員が「安全」に対する共通認識をもって安全指導を行っていききたい。

保護者	お子さんには仲良く遊ぶ友達がありますか。
児童	クラスに仲良く遊ぶ友達がありますか。
教職員	児童には仲良く遊ぶ友達がいるか。
教職員（指導）	児童が互いに良好な人間関係が築けるように指導をしている。



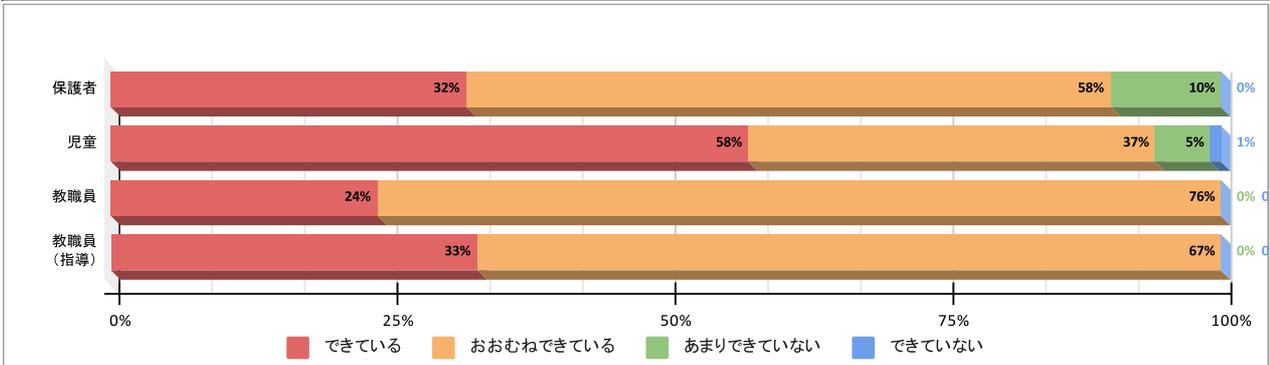
三者とも90%以上が肯定的な評価であり、満足のいく状況であるといえる。しかし、保護者の6%、児童の2%に否定的な回答が見られる。生活アンケートで子どもの実態把握に努めるだけでなく、普段から児童の成長や努力を細かに見取るなど、全教職員で今以上に子どもの思いに寄り添い、学校が全ての児童にとって居心地の良い場所になることを目指していく。

保護者	お子さんは、自分の役割に責任を持って行動していますか。
児童	学級の係や委員会の仕事など進んでいますか。
教職員	児童は、学級の係や委員会の仕事など進んでいるか。
教職員（指導）	児童が自分の役割に責任を持って取り組むことができるように指導している。



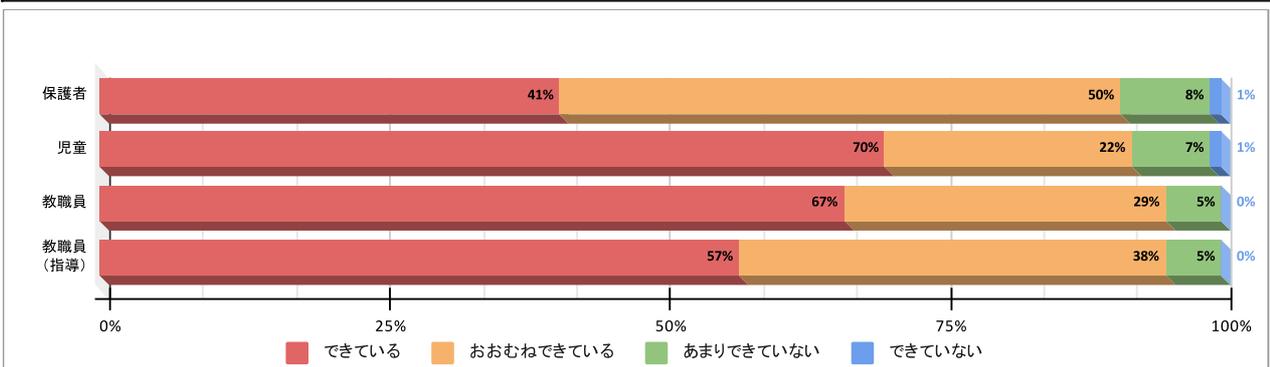
保護者・児童は90%近くが肯定的な回答をしており、しかし、10%近くが否定的な回答をしており、児童と教職員の評価の間に乖離が見られる。児童は進んで仕事に取り組んでいるつもりであっても、教職員はまだまだ「主体的に」取り組めていないと感じており、意識の差が生じていると考えられる。責任をもってやり抜く力は、本校のSTEAM教育でも育成を目指している。目的意識を児童が主体的にもつことができるように、自らの活動を振り返ったり児童同士で声を掛け合ったりできるような集団作りを進めていく必要がある。

保護者	お子さんは、周囲の人に親切な行動が取れていますか。
児童	友だちのために親切な行動が取れていますか。
教職員	児童は、友達に対して親切な行動が取れているか。
教職員（指導）	道徳の授業や学校生活全般を通して、親切な行動が取れるように指導をしている。



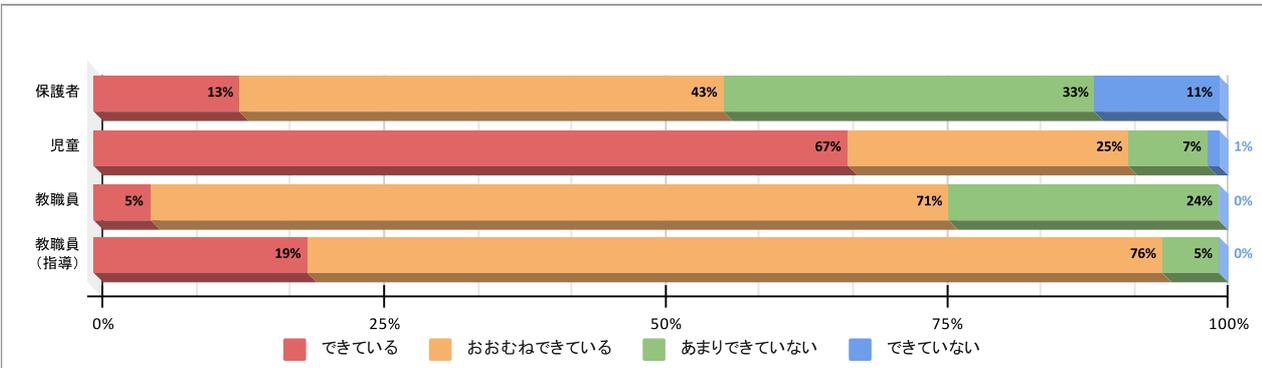
三者とも90%以上が肯定的な評価をしており満足のいく状況といえる。家庭と連携しつつ、道徳科を中心として学校の教育活動の様々な場面で心を耕し、道徳性を育ててきた成果であるといえる。人との関わりの中で自分も相手も大切にすることを大事にして、引き続き丁寧な指導を行っていききたい。

保護者	お子さんは、目標を持って学校行事に参加していますか。
児童	目標を持って学校行事に参加していますか。
教職員	児童は、目標を持って学校行事に参加しているか。
教職員（指導）	児童が目標を明確にし、意欲的に学校行事に参加できるように指導している。



三者とも90%以上が肯定的な回答をしており満足のいく状況と言える。学校行事は、望ましい人間関係を形成し、よりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる大切な教育活動である。これからも、行事に向けて取り組む中で、毎時間めあてをもったり振り返ったりする時間を確保することで、本校の目指す児童像の一つである「頑張りぬく」児童の育成を目指していく。

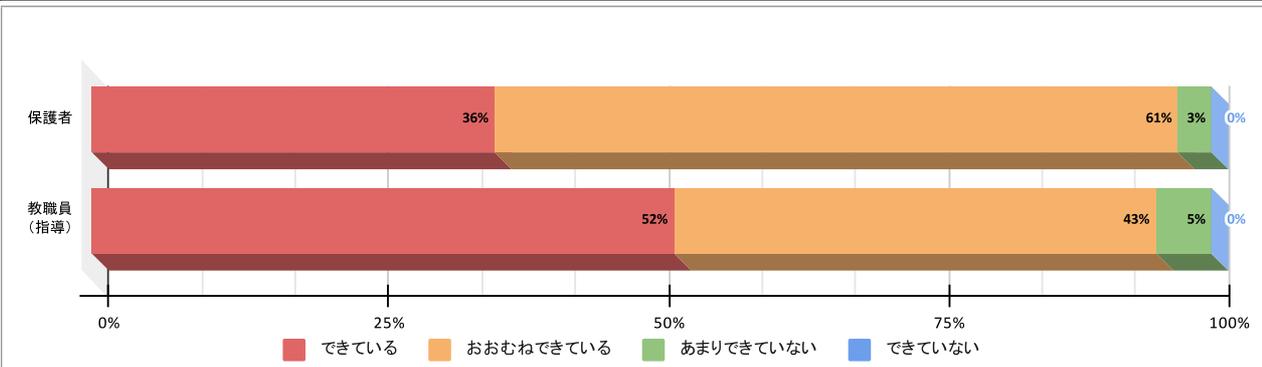
保護者	おさんは、家庭で自分が使ったものの後片付けができていますか。
児童	自分たちが使ったものの後片付けができていますか。
教職員	児童は、自分たちの使ったものの後片付けができていますか。
教職員（指導）	児童が整理整頓・片付けの意味や必要性を理解しながら後片付けができるように指導している。



（環境部）

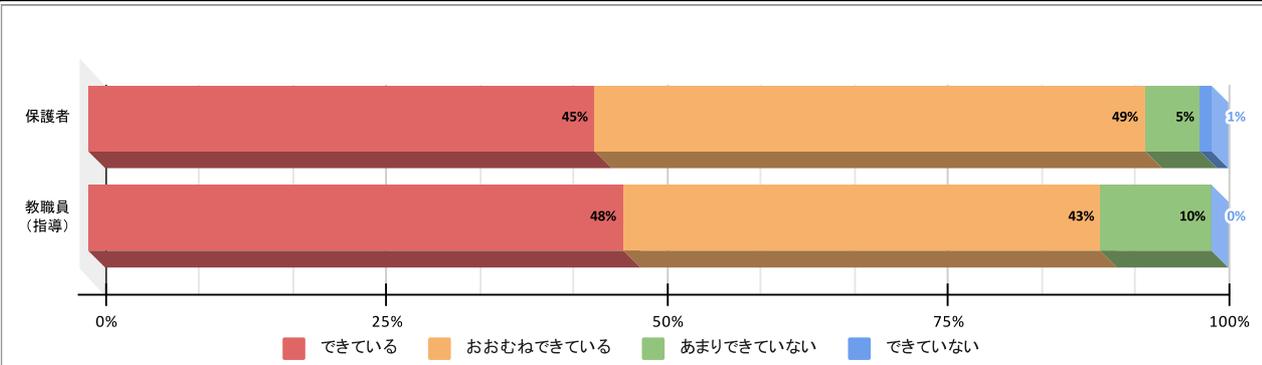
後片付けが「できている」と回答した児童が70%と非常に高いが、教職員は5%にとどまっている。片付けていると思込んでいるが実は片付けられていないなど、児童と教職員の間で感覚のずれがあると考えられる。授業前にミニごみ拾いタイムを設けるなど、きれいで片付けている状態を児童が常に目にすることができるようにしていく。

保護者	学校は、一人一人の子どもを大切にしながら指導していますか。
教職員（指導）	一人一人の子どもの個性や特性を大切にしながら指導している。



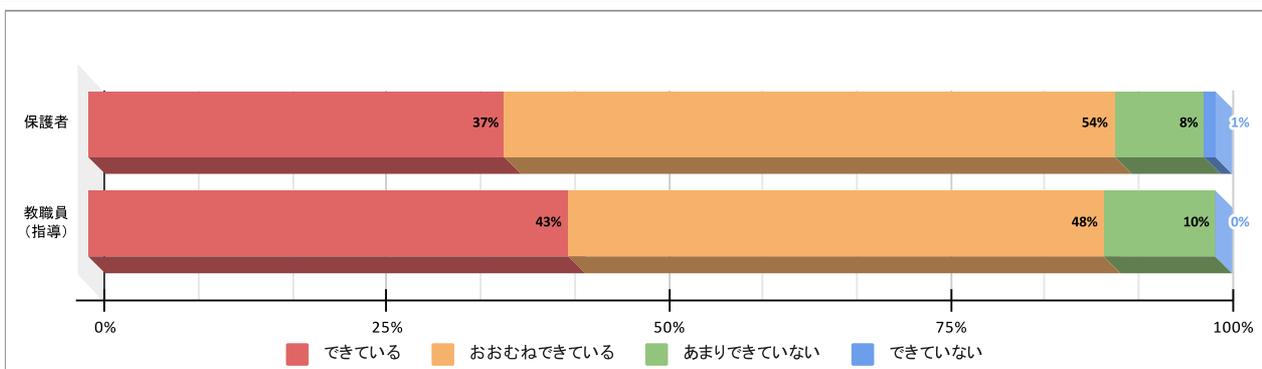
保護者・教職員とも95%程度が肯定的な回答をしており、満足のできる結果となっている。しかし、保護者の3%に否定的な回答があることを真摯に受け止める必要がある。また、教職員の5%も子どもの個性や特性を大切にしながら指導していることに課題を感じている。教職員は、一人一人の子どもの心に寄り添い、日々誠実な対応を心掛けている。これからも、全職員が情報を共有し、子どもの健全な成長を目指して学校全体で見守っていくことを大切に、組織的・協働的に取り組んでいく。

保護者 学校は、家庭への連絡や情報提供を行っていますか。  
 教職員（指導） 家庭への連絡や情報提供を適切に行なっている。



保護者・教職員とも90%以上が肯定的な評価をしており、概ね満足の結果と言える。しかし、保護者の6%が否定的な評価をしていることを真摯に受け止める必要がある。日頃の連絡の不備や不足がないよう情報提供の質的・量的な見直しを行っていく必要がある。また、学校だよりや学校ホームページを有効に活用して、学校の教育活動の様子や意図を理解していただけるよう情報発信を行っていく。

保護者 お子さんのことについて、学校は気軽に相談することができますか。  
 教職員（指導） 児童のことについて、家庭と相談、連携しながら指導を行っている。



保護者・教職員とも90%以上が肯定的な評価となっている。昨年と同様の評価をいただいていることから、概ね満足のできる結果と言える。しかし、依然として保護者の9%が否定的な評価をしていることを真摯に捉える必要がある。学校が保護者のよき相談相手として、また、保護者に安心を担保する存在として、しっかりと寄り添い信頼関係を築いていきたい。